

教育研究業績概要

氏 名 笹井 宣昌 ()				
研究分野		所属学会等の名称		
人間医工学、健康・スポーツ科学、神経科学		日本理学療法士協会、日本基礎理学療法学会、日本生理学会		
担当授業科目名 応用運動学、運動学実習、物理療法学、物理療法学実習、初期臨床実習、臨床評価実習、総合臨床実習、卒業研究				
教育上の能力に関する事項				
事 項	年	概 要		
1 教育の実践例、教育に関する評価等 授業の工夫	2010～現在	実演と体験により、実感や主観イメージを伴う理解を促している。 また小テストの実施により必須事項に関する記憶を促している。学生 にも好評である。		
2 作成した教科書、教材、指導書等 上・下肢の末梢神経走行の3次元モデル	1999	腕神経叢や腰仙骨神経叢の立体交叉のモデルを作製して公表された。 Kobayashi K. Model building practice in anatomy education. 第105 回日本解剖学会全国学術集会(2000. 神奈川)		
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・ 講師等				
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項				
事 項	年	概 要		
1 資格、免許、特許、受賞等 (資格、免許) 理学療法士免許 専門理学療法士(基礎理学療法) (受賞) 優秀賞 (専任の教員経験および名誉教授等) 姫路獨協大学講師	2002 2010 2005 2007-2009	厚生労働省 日本理学療法士協会 第40回日本理学療法学術大会、「培養骨格筋細胞肥大の伸張刺激による肥大」に対して。 任命権者；文部科学大臣		
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務 経験等 研修会等の講師 競争的研究資金 査読員 他18件	2010, 2017 2013～2016 2014～2017 2016～現在 2007～現在 2016～現在	社)日本理学療法士協会、認定理学療法士必須研修会 科学研究費補助金・挑戦的萌芽「培養細胞で"真"の廃用性筋萎縮モデルは作れるか? -理学療法研究への応用に向けて」分担 科学研究費補助金・挑戦的萌芽「炎症反応と骨格筋の萎縮・肥大を調節する基盤メカニズムの関連解明」代表 科学研究費補助金・挑戦的萌芽「力学刺激の減少に伴い起こる培養系筋萎縮は臨床の廃用性筋萎縮モデルになりうるか?」分担 日本理学療法学術大会, 社)日本理学療法士協会 Muscle Nerve, Neurosci Lett.		
研究業績等に関する事項				
著書名, 報告書名等	単・共 著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
(著書)				

<p>(報告書等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 萎縮筋における機械刺激による収縮機能改善のメカニズム解明 ・ 炎症反応と骨格筋の萎縮・肥大を調節する基盤メカニズムの関連解明 	<p>単著</p> <p>単著</p>	<p>2012</p> <p>2017</p>	<p>鈴鹿医療科学大学</p> <p>鈴鹿医療科学大学</p>	<p>日本学術振興会・科学研究費・若手研究 B (2010-2012) 報告書</p> <p>日本学術振興会・科学研究費・挑戦的萌芽(2014-2017) 報告書</p>
<p>学術論文 学会発表等の題名</p>	<p>発表者名</p>		<p>発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等</p>	
<p>(学術論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストレッチによる骨格筋の肥大と萎縮抑制 ・ 筋膜 による筋間連結 の機能的役割 - ウシガエル ウシガエル 膝伸筋 膝伸筋 を用いた研究 - ・ Involvement of PI3K/Akt/TOR pathway in stretch-induced hypertrophy of myotubes. <p>ほか8編</p>	<p><u>笹井宣昌</u> 石井禎基, 崎田正博, <u>笹井宣昌</u>, ほか4名</p> <p><u>Sasai N</u>, Agata N, Inoue-Miyazu M ほか4名</p>		<p>体育の科学, 65, 413-418, 2015</p> <p>理学療法学, 40, 16-23, 2013</p> <p>Muscle Nerve, 41, 100-106, 2010</p>	
<p>(学会発表等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 培養筋管細胞の持続的収縮活動は損傷タンパク質を蓄積させ、その後の不活動はそれらを除去させる ・ Short time of unloading promotes protein synthesis in cultured unloading induced muscle atrophy model. ・ Association between PI3K/Akt/TOR pathway and stretch-induced hypertrophy in primary cultured chick myotubes <p>ほか47件</p>	<p>吉岡潔志, 黒木優子, <u>笹井宣昌</u>, ほか4名</p> <p>Yoshioka K, Kurogi Y, <u>Sasai N</u>, ほか3名</p> <p><u>Sasai N</u>, Agata N, Inoue-Miyazu M, ほか3名</p>		<p>第67回日本細胞生物学会大会, 2015, 東京</p> <p>The conference of Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, 2014, Santa Fe, USA</p> <p>第8回国際比較生理学会, 2011, 名古屋</p>	
<p>(その他)</p>				